

歩いた総距離は地球2周分以上！ 街道歩きのエキスパートが解説する詳細地図  
『ちゃんと歩ける日光街道 奥州街道 日光道中二十一次・奥州道中十次』発売

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（所在地：東京都千代田区、代表取締役社長：川崎深雪）は『ちゃんと歩ける日光街道 奥州街道 日光道中二十一次・奥州道中十次』を2018年2月19日に刊行いたしました。

街道ウォーカーの定番地図、ついに五街道完結

この一冊で迷わず歩ける、日光街道・奥州街道をとことん歩きたい人におすすめの、街道ウォーカーのための地図です。持ち運びにも最適な、道中の邪魔にならないハンディサイズです。

日光街道は厳しい山道や峠道がなく、おおむねフラットなコースで初心者にもおすすめ。鉄道でのアクセスも便利です。奥州街道も、宇都宮から白河宿であれば2～4日で踏破できる長さで、五街道のなかでも歩きやすい道のりです。

本書では、日光街道は江戸日本橋から日光東照宮のある鉢石宿までの二十一次、奥州街道は宇都宮から白河宿までの十次を網羅。

著者・八木牧夫さんが、名所旧跡などの見どころや、街道歩きに必要な食事処やトイレ、宿泊できる場所などもわかりやすく紹介しています。



<目次>

◆日光道中二十一次

- ・武蔵國

江戸日本橋、千住宿、草加宿、越ヶ谷宿、粕壁宿、杉戸宿、幸手宿、栗橋宿

- ・下総國

中田宿、古河宿

- ・下野國

野木宿、間々田宿、小山宿、新田宿、小金井宿、石橋宿、雀宮宿、宇都宮宿、徳次郎宿、大沢宿、今市宿、鉢石宿

◆奥州道中十次

- ・下野國

宇都宮宿、白沢宿、氏家宿、喜連川宿、佐久山宿、大田原宿、鍋掛宿、越掘宿、芦野宿

- ・陸奥國

白坂宿、白河宿

日光道中

武蔵野 江戸日本橋 (東京都)

至京三条大橋  
慶長八年(1603)の架橋。昔も今も街道の起点等が晒された流の広場。関東大震災後、築地に移転した(乙姫広場)。

徳川家康は江戸入府直後に参詣。慶長十九年(1614)二代將軍秀忠も参詣し「福徳」ともめでたい神号だと稱賛した。

徳川家康の江戸入府に際し、三河より随行した馬込助解由が名主となり三伝馬取締役を勤めた。

江戸日本橋 881m  
二里八町 千住 エリア1東京駅中央区日本橋最寄り駅1東京駅

日本橋 甲州道中 至下諏訪宿  
庶民への投書(花の広場) 橋中央に埋設されている。元標の複製がある(元標の広場) 江戸方面からは右折する 日光方面からは左折する

福徳神社 日本橋本町  
大伝馬町 井戸跡 於竹大日如来 馬込家の下女おお竹は、大日如来の化身であった。徳川五代將軍綱吉の母桂昌院の信仰が篤かった。

宝田村の領守、江戸城の拡張に伴いこの地に移転した。浅漬け大根のべつたら市で知られる。

現十思公園「吉田松陰先生終焉之地碑」がある。幕末松陰は「安政の大獄」で捕えられ斬首した。園内には石町時の鐘がある。旭刑はこの鐘を台内に行われ刑の執行を控えた日は刻限を意図的に遅らせたところから「情けの鐘」と呼ばれた。

関東一円の幕府直轄地(天領)を支配した関東郡代の屋敷跡。水承六年(1051)源義家は奥州出征の際、隅田川の川上より流れ着いた銀杏の枝を地面に刺し勝利を祈願した。奥州平定後戻ると銀杏が大きく繁茂していた。この神恩に感謝し八幡宮を勧請した。興は江戸一の重きを誇る。この地の産土神。千貫御輿は江戸の重きを誇る。

伊能忠敬の師匠天文方高橋至時。武田信玄の娘で家康の側室。武田信玄の娘で家康の側室。武田信玄の娘で家康の側室。

江戸日本橋 881m  
二里八町 千住 エリア1東京駅中央区日本橋最寄り駅1東京駅

日本橋 甲州道中 至下諏訪宿  
庶民への投書(花の広場) 橋中央に埋設されている。元標の複製がある(元標の広場) 江戸方面からは右折する 日光方面からは左折する

福徳神社 日本橋本町  
大伝馬町 井戸跡 於竹大日如来 馬込家の下女おお竹は、大日如来の化身であった。徳川五代將軍綱吉の母桂昌院の信仰が篤かった。

宝田村の領守、江戸城の拡張に伴いこの地に移転した。浅漬け大根のべつたら市で知られる。

現十思公園「吉田松陰先生終焉之地碑」がある。幕末松陰は「安政の大獄」で捕えられ斬首した。園内には石町時の鐘がある。旭刑はこの鐘を台内に行われ刑の執行を控えた日は刻限を意図的に遅らせたところから「情けの鐘」と呼ばれた。

関東一円の幕府直轄地(天領)を支配した関東郡代の屋敷跡。水承六年(1051)源義家は奥州出征の際、隅田川の川上より流れ着いた銀杏の枝を地面に刺し勝利を祈願した。奥州平定後戻ると銀杏が大きく繁茂していた。この神恩に感謝し八幡宮を勧請した。興は江戸一の重きを誇る。この地の産土神。千貫御輿は江戸の重きを誇る。

伊能忠敬の師匠天文方高橋至時。武田信玄の娘で家康の側室。武田信玄の娘で家康の側室。武田信玄の娘で家康の側室。

江戸日本橋 881m  
二里八町 千住 エリア1東京駅中央区日本橋最寄り駅1東京駅

日本橋 甲州道中 至下諏訪宿  
庶民への投書(花の広場) 橋中央に埋設されている。元標の複製がある(元標の広場) 江戸方面からは右折する 日光方面からは左折する

福徳神社 日本橋本町  
大伝馬町 井戸跡 於竹大日如来 馬込家の下女おお竹は、大日如来の化身であった。徳川五代將軍綱吉の母桂昌院の信仰が篤かった。

宝田村の領守、江戸城の拡張に伴いこの地に移転した。浅漬け大根のべつたら市で知られる。

現十思公園「吉田松陰先生終焉之地碑」がある。幕末松陰は「安政の大獄」で捕えられ斬首した。園内には石町時の鐘がある。旭刑はこの鐘を台内に行われ刑の執行を控えた日は刻限を意図的に遅らせたところから「情けの鐘」と呼ばれた。

関東一円の幕府直轄地(天領)を支配した関東郡代の屋敷跡。水承六年(1051)源義家は奥州出征の際、隅田川の川上より流れ着いた銀杏の枝を地面に刺し勝利を祈願した。奥州平定後戻ると銀杏が大きく繁茂していた。この神恩に感謝し八幡宮を勧請した。興は江戸一の重きを誇る。この地の産土神。千貫御輿は江戸の重きを誇る。

伊能忠敬の師匠天文方高橋至時。武田信玄の娘で家康の側室。武田信玄の娘で家康の側室。武田信玄の娘で家康の側室。

奥州街道

下野郡 喜連川宿(栃木)

氏家 7.7km  
二里 佐久山 エリア1栃木県さくら市喜連川最寄り駅1日本東北線片岡駅 片岡線バス喜連川支所バス停下車

喜連川 11.6km  
三十三町三十四町 佐久山

寛延元年(1748)建立の道標。右江戸道左下妻道がある。足利尊氏の開基で喜連川氏の菩提寺。墓所には歴代藩主の墓がある。

現かぶき時計店。「旅籠屋山田屋徳平」跡。現割烹亭川屋「永井家が勤め裏に明治大皇御小休所」碑がある。

現街の駅本陣「上野太郎平が勤め問屋を兼ねた現建物は天正十五年(1926)築の旧喜連川警察署」。

銘葉落雁「榎山錦」の老舗。

喜連川 11.6km  
三十三町三十四町 佐久山 エリア1栃木県さくら市喜連川最寄り駅1日本東北線片岡駅 片岡線バス喜連川支所バス停下車

喜連川 11.6km  
三十三町三十四町 佐久山

寛延元年(1748)建立の道標。右江戸道左下妻道がある。足利尊氏の開基で喜連川氏の菩提寺。墓所には歴代藩主の墓がある。

現かぶき時計店。「旅籠屋山田屋徳平」跡。現割烹亭川屋「永井家が勤め裏に明治大皇御小休所」碑がある。

現街の駅本陣「上野太郎平が勤め問屋を兼ねた現建物は天正十五年(1926)築の旧喜連川警察署」。

銘葉落雁「榎山錦」の老舗。

喜連川 11.6km  
三十三町三十四町 佐久山 エリア1栃木県さくら市喜連川最寄り駅1日本東北線片岡駅 片岡線バス喜連川支所バス停下車

喜連川 11.6km  
三十三町三十四町 佐久山

寛延元年(1748)建立の道標。右江戸道左下妻道がある。足利尊氏の開基で喜連川氏の菩提寺。墓所には歴代藩主の墓がある。

現かぶき時計店。「旅籠屋山田屋徳平」跡。現割烹亭川屋「永井家が勤め裏に明治大皇御小休所」碑がある。

現街の駅本陣「上野太郎平が勤め問屋を兼ねた現建物は天正十五年(1926)築の旧喜連川警察署」。

銘葉落雁「榎山錦」の老舗。

喜連川 11.6km  
三十三町三十四町 佐久山 エリア1栃木県さくら市喜連川最寄り駅1日本東北線片岡駅 片岡線バス喜連川支所バス停下車

喜連川 11.6km  
三十三町三十四町 佐久山

寛延元年(1748)建立の道標。右江戸道左下妻道がある。足利尊氏の開基で喜連川氏の菩提寺。墓所には歴代藩主の墓がある。

現かぶき時計店。「旅籠屋山田屋徳平」跡。現割烹亭川屋「永井家が勤め裏に明治大皇御小休所」碑がある。

現街の駅本陣「上野太郎平が勤め問屋を兼ねた現建物は天正十五年(1926)築の旧喜連川警察署」。

銘葉落雁「榎山錦」の老舗。

## <書籍詳細>

『ちゃんと歩ける日光街道 奥州街道 日光道中二十一次・奥州道中十次』

著者：五街道ウォーク・八木牧夫

判型：四六判 152頁

定価：本体 1,600円+税

ISBN：978-4-635-60085-9

<http://www.yamakei.co.jp/products/2818600850.html>

## <著者近刊>



### 『健康が歩いてやってくる！ 五街道ウォークのすすめ』

「街道ウォークのエキスパート」として知られる著者が、経験から編み出した超実践的ノウハウ、街道ならではの楽しみ、さらには初めて歩く方におすすめの日帰りコースなど、街道ウォークのはじめ方を伝授します。

往時の人々も多く通行した街道には、歴史の面影が残り、旅人を癒してきた宿場やご当地グルメなど魅力がいっぱいです。そんな街道はウォーキングフィールドとしても、一里塚や宿場などのチェックポイントが点在し、まさに最適の舞台。楽しく歩けば、知らず知らずのうちに健康が歩いてやってくる！

著者：五街道ウォーク・八木牧夫

判型：四六判 208頁

定価：本体 1,300円+税

ISBN：978-4-635-49029-0

<http://www.yamakei.co.jp/products/2817490290.html>

【山と溪谷社】 <http://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心に、国内外で山岳・自然科学・アウトドア等の分野で出版活動を展開。さらに、自然、環境、エコロジー、ライフスタイルの分野で多くの出版物を展開しています。

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>



株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。2017年4月1日に創設25周年を迎えました。

以上

【本リリースについてのお問い合わせ先】

株式会社山と溪谷社 担当：草柳

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1911 メール：[info@yamakei.co.jp](mailto:info@yamakei.co.jp)